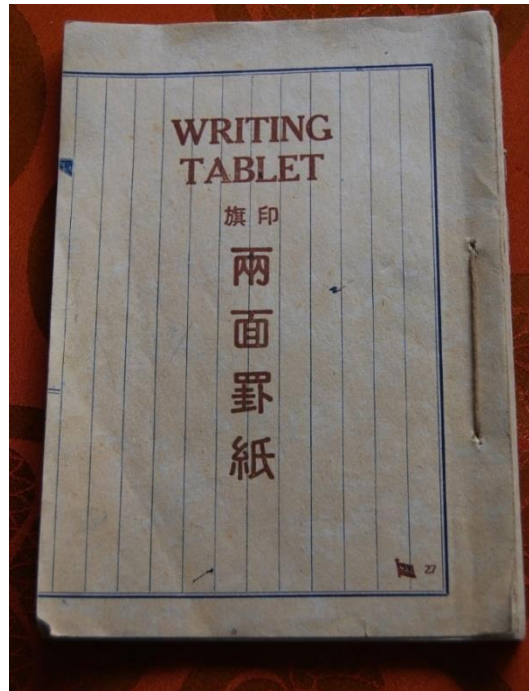


きよし
島田清守 蒼龍時代の日記

昭和16年10月31日～12月31日



島田清守略歴

大正 10 年 (1921 年)	5 月 24 日	埼玉県生まれ
昭和 13 年 (1938 年)	6 月	第九期飛行予科練習生 (乙種)
昭和 15 年 (1940 年)	11 月	予科練卒業、第十期飛行練習生 (偵察)
昭和 16 年 (1941 年)	10 月	飛練卒業、蒼龍配属
昭和 17 年 (1942 年)	1 月	瑞鳳配属
	3 月 15 日	小笠原北方海面にて索敵中天候悪化のため帰艦できず行方不明
	4 月 4 日	戦死認定

島田清守は大正10年5月24日、埼玉県において3人きょうだいの真ん中（兄・陸軍で戦死、妹）として生まれた。尋常高等小学校高等科を卒業後、青年学校在学中に海軍第9期飛行予科練習生（乙種）を志願し、昭和13年6月、横須賀海軍航空隊に入隊。入隊後1年経過した時点で行なわれた操偵適性検査においては偵察に振り分けられた。約2年半の予科練生活を経て昭和15年11月末に第10期飛行練習生教程に進み、鈴鹿海軍航空隊において実際に飛行機に乗りながら偵察員としての基礎訓練を受ける。16年7月末には博多海軍航空隊に移りより実戦に即した訓練に励み、同年10月末、飛練教程の卒業を迎えた。

この日記は博多での飛練教程卒業式の日から始まっている。

島田の最初の配属先は真珠湾攻撃を控えた航空母艦・蒼龍であった。

笠之原での訓練、そして行先を告げられぬままの出撃、真珠湾攻撃（出撃せず）、実際に出撃したウェーク島攻撃（艦攻電信員）、内地への帰還・・・約2ヶ月間の日記である。

その後、島田は年明け早々に航空母艦・瑞鳳に転勤。

昭和17年3月15日、小笠原北方（北西方と書かれたものもある）海面において索敵命令を受け電信員として九七艦攻で発艦〔操：工藤隆1飛（操55）、偵：伊藤心友2飛曹（偵36）、電：島田清守3飛曹（乙9）〕、急激な天候悪化により帰艦不能に陥り、横須賀海軍航空隊に向かう旨打電後消息を絶った。

活字化にあたり、なるべく本人が記述している通りにすることを心掛けた。ただし海軍で使われていた記号は文字に直してある。明らかに誤字脱字・書き癖と思われるものについてもそのまま表記し、その直後に（ ）書きの赤字で解釈を加えた。

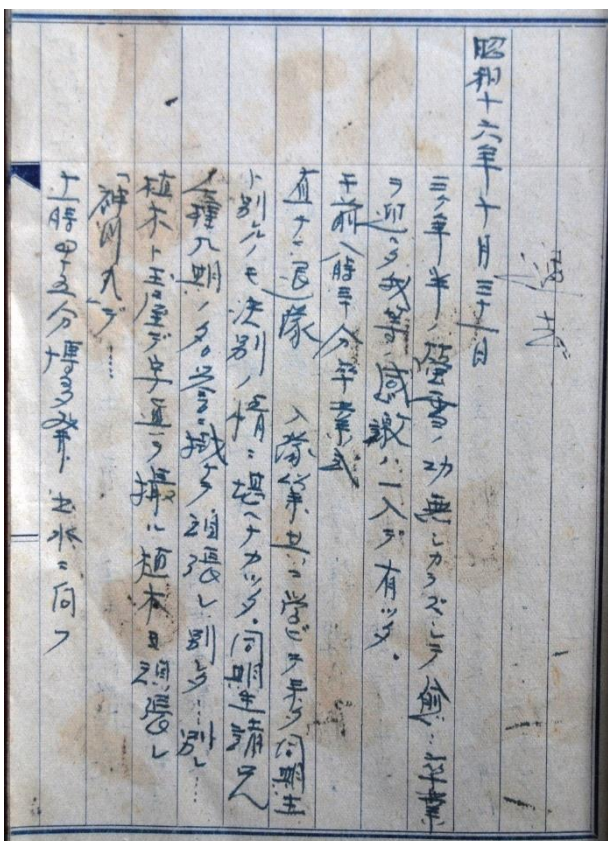
判読不能の文字については■で表記している。原本画像で確認していただきたい。

なお、日記解釈文は高橋順子の責任で公開するものである。注釈部分で使用した画像は、他の予科練生遺族から提供を受けたものも使用している。

※修正の必要があるときは適宜修正し、修正版をアップロードし直したときにはブログで告知する予定。

本サイトの内容に関して無断転載はご遠慮ください。

2021年12月11日 初版アップロード



過去

昭和十六年十月三十一日

三ヶ年半ノ螢雪ノ功無シカラズシテ愈々卒業ヲ迎ヘタ。我等ノ感激ハ一入デ有ツタ。
午前八時三十分卒業式
直チニ退隊。入隊以来共ニ学ビテ来タ同期生ト別レルノモ決別ノ情ニ堪ヘナカツタ。同期生諸兄乙種九期ノ名誉ニ掛ケテ頑張レ。別レタ：別レ：植木ト玉屋デ写真ヲ撮ル。植木モ頑張レ「神川丸」デ……
十一時四十五分博多発、出水ニ向フ。

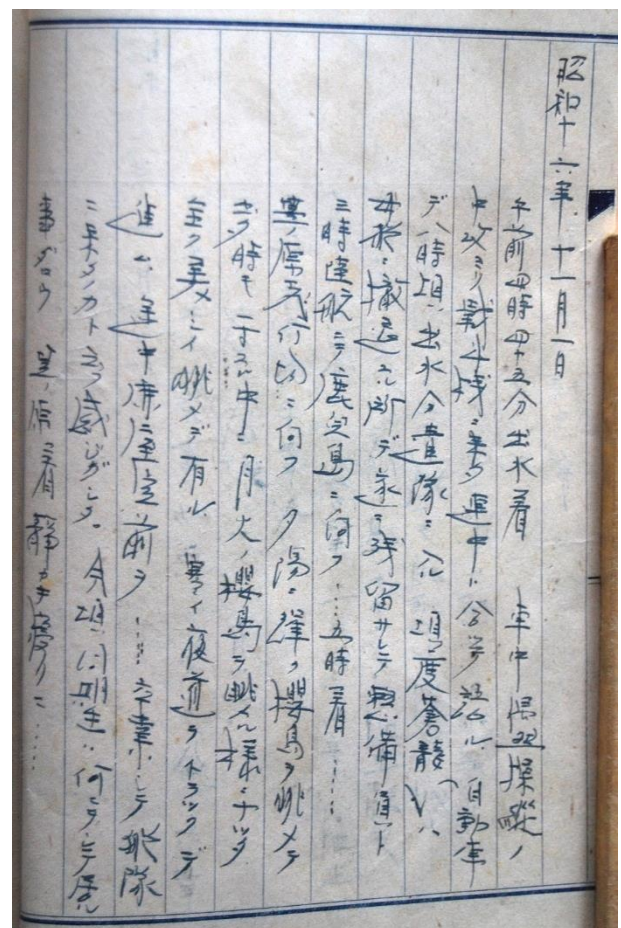


博多海軍航空隊 第十期飛行(偵察)練習生卒業記念 昭和16年10月31日
右下は島田



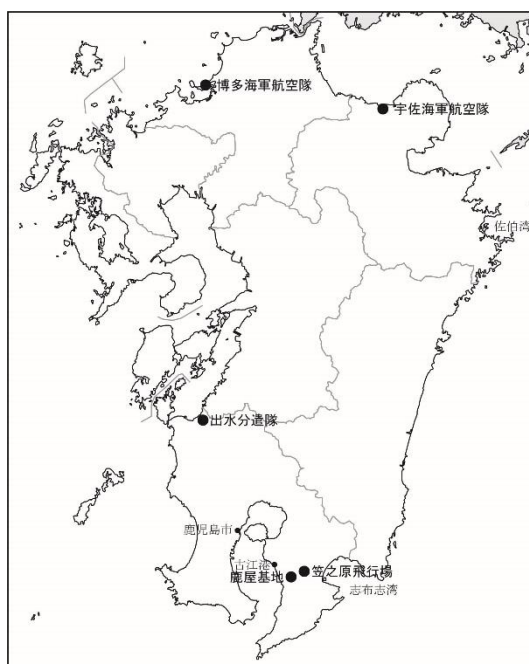
植木愛雄3飛曹(乙9期)偵察
水上機偵察員。島田とは卒業後も文通をしていた。
昭和19年8月2日 121空 テニアンにて戦死





昭和十六年十一月一日

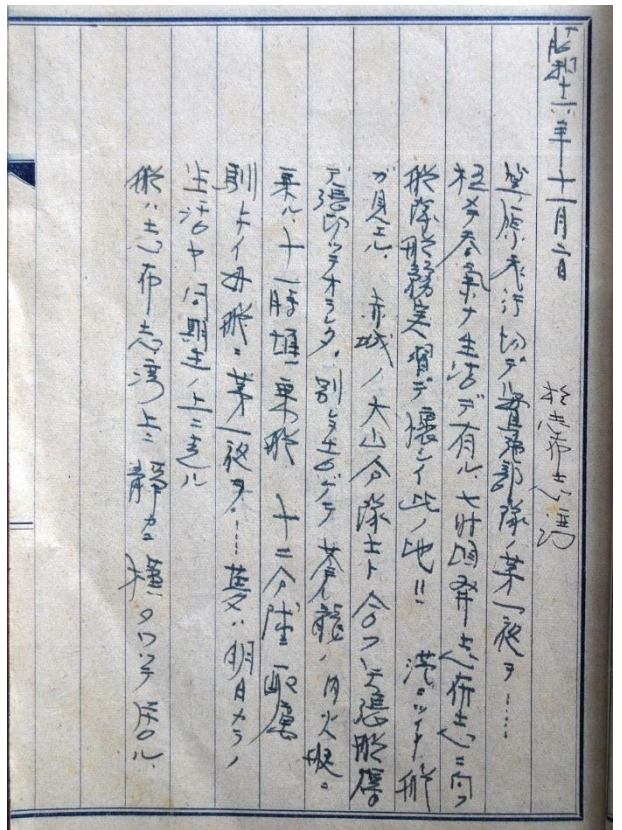
午前四時四十五分、出水着。車中偶然操縦ノ
 中攻ヨリ戦斗機ニ来タ連中ト合ッテ語ル。自動車
 デ八時頃出水分遣隊ニ入ル。頃度(頂度?)蒼龍飛行機隊ハ
 母艦ニ撤退スル所デ、遂ニ残留サレテ整備員ト
 三時陸航ニテ鹿児島ニ向フ……五時着……
 笠ノ原飛行場ニ向フ。夕陽ニ輝ク櫻島ヲ眺メテ
 出タ時モ一寸スル中二月火ノ櫻島ヲ眺メル様ニナッタ。
 全ク美シイ眺メデ有ル。寒イ夜道ヲトラックデ
 進ム。途中鹿屋空前ヲ……卒業シテ艦隊
 ニ来タノカト云フ感ジガシタ。今頃同期生ハ何ヲシテ居ル
 事ダロウ。笠ノ原着。静カニ寝リニ……



九州の関係地図



日記に登場する海軍記号



昭和十六年十一月二日

於志布志湾

笠ノ原飛行場デ實施部隊ノ第一夜ヲ……。
 極メテ吞氣ナ生活デ有ル。七時頃發、志布志ニ向フ。
 艦隊艦務実習デ懷シイ此ノ地!! 港ニツイテ艦
 ガ見エル。赤城ノ大山分隊士ト合フ。矢張艦爆
 デ張切ツテオラレタ。別レヲ告ゲテ蒼龍ノ内火艇ニ
 乗ル。十一時頃乗艦。 十二分隊ニ配属。
 馴レナイ母艦ニ第一夜ヲ……夢ハ明日カラノ
 生活ヤ同期生ノ上ニ走ル。
 艦ハ志布志湾上ニ静カニ横タワツテ居ル。



大山利雄飛曹長（偵練21期）偵察
 飛練10期鈴鹿（偵察）時代の分隊士
 真珠湾攻撃時、赤城艦爆隊 自爆

昭和十六年十一月三日
明治節ノ佳節ヲ母艦上ニ迎ヘタ。
志布志灣上モ殊ノ外静カデ有ル。
午前八時十五分遙拝式、續イテ(終ッテ?)御写真奉拝、
勅諭奉読、司令訓示
「自己ノ職責ヲ全ウセヨ」……
休業!! 艦隊ダケ有ッテ休業モ陸上部隊ノ様ニ
賑デナイ。外出ナシ。矢張第一線ノ守リハ固シ。
明日カラノ演習ノ講話ノ予定デ有ッタガ取止メ。

昭和十六年十一月三日

於志布志灣

明治節ノ佳節ヲ母艦上ニ迎ヘタ。

志布志灣上モ殊ノ外静カデ有ル。

午前八時十五分遙拝式、續イテ(終ッテ?)御写真奉拝、

勅諭奉読、司令訓示

「自己ノ職責ヲ全ウセヨ」……

休業!! 艦隊ダケ有ッテ休業モ陸上部隊ノ様ニ

賑デナイ。外出ナシ。矢張第一線ノ守リハ固シ。

明日カラノ演習ノ講話ノ予定デ有ッタガ取止メ。

昭和十六年十一月四日
早朝ヨリ演習ノタメ出港。
朝起ルト艦ハ洋上ニ白波ヲ立テテ居ル。
随伴艦モ續ク、母艦モ走ル。艦務実習モ思イ出ス。
〇七〇〇攻撃隊発艦。初メテ母艦ノ発艦
作業ヲ見タ。勇マシイ。飛バナイ自分ハ唯々
ボンヤリトシテ居タ。午前九時着艦。
艦爆モ一時間程遅レテ発艦シタ。
夕刻又志布志灣ニ入港。
第一航戦、二航戦並ンデ入ル。アレニモ皆同期
生ガ居ルノダ。

昭和十六年十一月四日

於志布志灣

早朝ヨリ演習ノタメ出港。

朝起ルト艦ハ洋上ニ白波ヲ立テテ居ル。

随伴艦モ續ク、母艦モ走ル。艦務実習モ思イ出ス。

〇七〇〇攻撃隊発艦。初メテ母艦ノ発艦

作業ヲ見タ。勇マシイ。飛バナイ自分ハ唯々

ボンヤリトシテ居タ。午前九時着艦。

艦爆モ一時間程遅レテ発艦シタ。

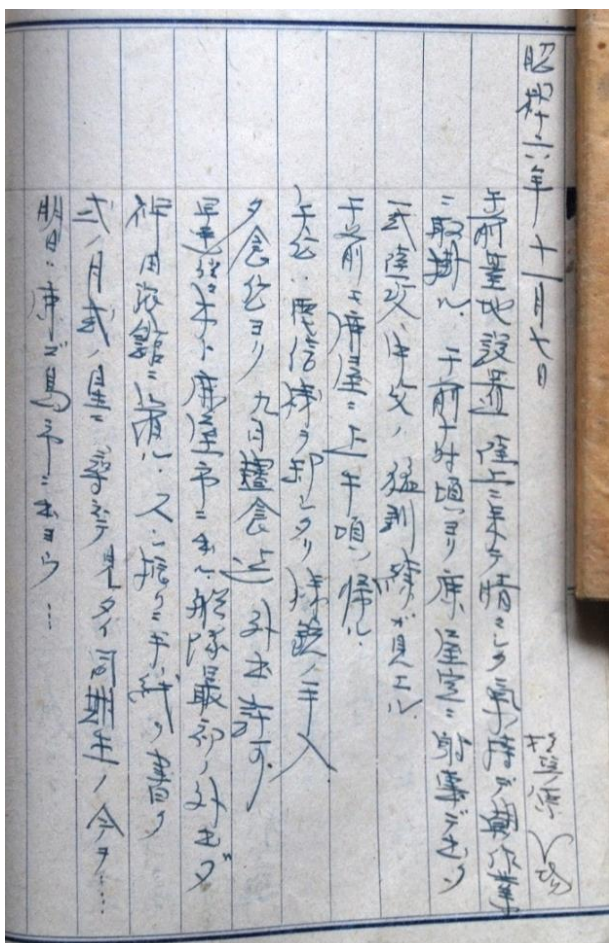
夕刻又志布志灣ニ入港。

第一航戦、二航戦並ンデ入ル。アレニモ皆同期

生ガ居ルノダ。



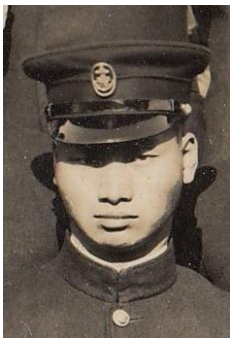
大塚孝平3飛曹（乙9期）偵察
この時、翔鶴艦攻隊
疾病免役後、昭和19年5月30日死亡



昭和十六年十一月七日

於笠ノ原飛行場

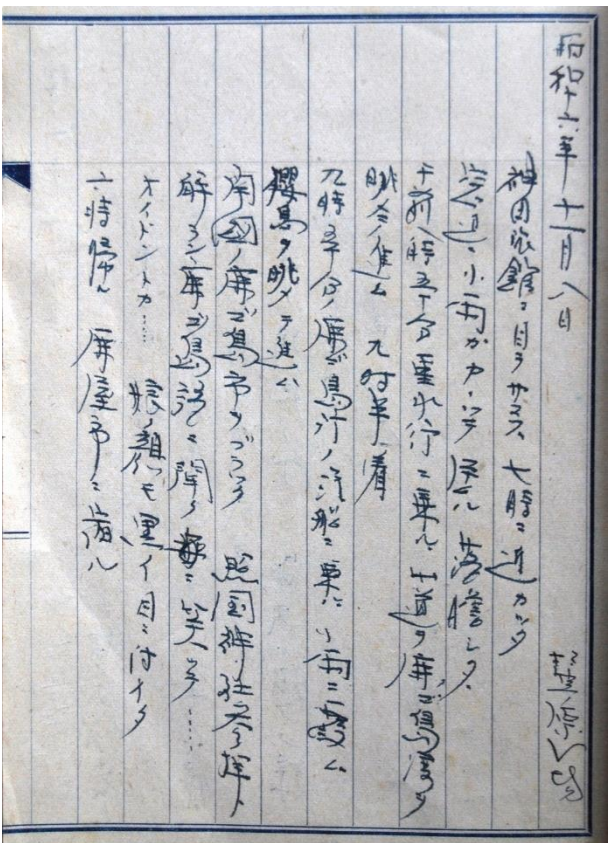
午前、基地設置。陸上ニ来テ晴々シタ氣持デ朝作業
ニ取掛ル。午前十一時頃ヨリ鹿屋空ニ射撃デ来タ
一式陸攻、中攻ノ猛訓練ガ見エル。
午前モ鹿屋ニ正午頃帰ル。
午後ハ電信機ヲ卸シタリ機銃ノ手入。
夕食后ヨリ九日晝食迄外出許可。
早速佐々木ト鹿屋市ニ出ル。艦隊最初ノ外出ダ。
神田旅館ニ宿ル。久シ振リニ手紙ヲ書ク。
或ノ月（あいつき）、或ノ星（あのはし）ニ尋ネテ見タイ、同期生ノ今ヲ……。
明日ハ鹿ゴ島市ニ出ヨウ……。



佐々木隆寿3飛曹（乙9期）偵察

この時、蒼龍艦攻撃隊。ウエーク島攻撃時、島田のペア。のち瑞鳳でも一緒。

昭和20年8月14日 攻撃256飛行隊 香取基地から発進、戦死



昭和十六年十一月八日

於笠ノ原飛行場

神田旅館二目ヲサマス。七時ニ近カッタ。

窓辺ニ小雨ガカカッテ居ル。落膽シタ。

午前八時五十分、垂水行ニ乗ル。山道ヲ鹿ゴ島湾ヲ

眺メテ進ム。 九時半着。

九時五十分ノ鹿ゴ島行ノ汽船ニ乗ル。小雨ニ霞ム

櫻島ヲ眺メテ進ム。

南國ノ鹿ゴ島市ヲブラツク。 照国神社参拝。

解ラン鹿ゴ島語ニ聞ク毎ニ笑ツテ……。

オイドントカ……。娘ノ顔モ黒イ、目ニ付イタ。

六時帰ル。鹿屋市ニ宿ル。

